

I 学校の概要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業

高松市立仏生山小学校

◆児童数及び教員数

○児童生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全 校
3学級 93名	4学級 113名	3学級 73名	3学級 93名	3学級 95名	3学級 93名	5学級 26名	24学級 586名

○教員数 32名

◆学校の特色

本校区は、高松藩主松平家の菩提寺の法然寺や「いわざら こざら」の伝説が残る平池、稚日女命を祭る膝（ちきり）神社があり、門前町の面影を残した緑豊かな地域である。これらを地域教材として、総合的な学習の時間には「地域貢献」を柱に探究的な学習を展開している。令和6年度11月の児童アンケートで「総合的な学習に進んで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童は9割以上であった。また、話し合い活動をより多く取り入れ、協働的な学びの充実を図っている。同上アンケートで「友達との話し合いに進んで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童も9割以上であった。また、「授業が楽しい」と肯定的に回答した児童も9割弱と高い割合であった。しかし、「国語の授業が楽しい」と肯定的に捉えている児童は、算数に比べて多いとは言えない状況である。

II 研究主題等

研究主題

子どもとともに「楽しく 分かる・できる」国語科授業の創造

～主体性と協働性を高め、学びの系統性を重視した授業づくり～

◆研究主題設定の理由

全国学力学習状況調査質問紙「国語の勉強は好きか」の設問に対して、本校児童の過半数が否定的回答であった。また教員アンケートでは、全員の教員が国語科学習指導において難しさを感じている。そのため、全国学力学習状況調査国語正答率は、全国・県をともに下回る結果であった。また、日頃の授業においても読解力の育成が課題であると本校教員の多くが感じている。

子どもとともに楽しくて、分かる・できる国語科授業を考え実践することは、本校の課題である読解力の向上に役立つと考える。そのために、主体性と協働性を高め、学びの系統性を重視しながら授業づくりを副主題としていく。この主題や副主題のもとで研究を進めていくことは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現につながるものと期待する。

◆研究内容及び方法

<研究内容>

- ① 単元構想での手立て
 - ア 子どもに付けたい力の明確化（付けたい言葉の力の系統一覧の開発）
 - イ 単元全体での見通しの視覚化（視覚化された単元計画シート「学びの地図」の作成と活用）
- ② 一単位時間での手立て
 - ア 課題意識の向上
 - ㊦ 価値ある課題との出会い（面白そう、自分に利益となりそう、生活に役立ちそう）
 - ㊧ ゴールに対する現在地の確認（学びの地図の活用）
 - イ 話し合いの活性化
 - ㊦ 論点の明確化（発問・板書の工夫、選択肢の提示等）
 - ㊧ 環境整備（話しやすい人数や机の向き等）
 - ウ 振り返りの充実
 - ㊦ 振り返りの視点（学習結果、学習プロセス、感情、自己成長）
 - ㊧ 振り返りの時期（単元のどこで振り返らせるか：毎時間、又は特定の時間）
 - ㊨ 振り返りの方法（事前と事後の自分を比較、振り返り一覧シート、タブレット等）
- ③ 授業支援の手立て
 - ア 教材研究方法開発
 - ㊦ 教材分析シートや授業設計シートの開発と活用
 - ㊧ 国語科授業の手引き開発（教材分析の視点や方法、授業設計の視点や方法）
 - イ 校内研修体制整備
 - ㊦ 教材研究時間の確保（現職教育の時間の活用）
 - ㊧ 授業研究体制の充実（学年団での情報交換の場の設定や研究授業におけるワークショップ型協議会の推進）

<研究方法>

- ・各学級での実践と記録（学年団での教材分析と授業設計：各学年3単元）
- ・研究授業（2学期：各学年1本ずつ）

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- ① 令和6年度香川県学習状況調査質問紙調査及び令和7年度当初に校内で行う「研究成果の参考とする10の指標」の調査を行い、その結果を基準値とする。
- ② 基準値や県の調査結果、児童生徒の実態等を踏まえて令和7年6月頃に目標値を設定する。
- ③ 令和7年11月に調査を行い、達成状況を考察する。

Ⅳ 研究成果の普及方法

- 校内研究授業案内を校外に周知し授業を公開する。
- 12月の「香川の教育づくり発表会」において成果を発表する。